

Pedilavium

ペディラヴィウム

知っておきたいキリスト教のことば (122)

洗足 せんそく

復活日の前の一週間は「聖週」と呼ばれ、特にその中でも木金土の三日間をカトリック教会では「聖なる三日間」と呼びます。(この呼び方は、聖公会ではあまり聞き慣れないかもしれません)。

そしてこの三日間は聖木曜日、聖金曜日(受苦日)、聖土曜日と呼ばれ、それぞれ意味をもった礼拝をおこなうことがあります。

聖金曜日(受苦日)の礼拝では、イエス様の十字架を覚え、十字架上の七聖句が読まれることもあります。また聖土曜日には復活のろうそくの祝福をおこなう教会もありますし、聖木曜日には、聖餐制定を記念する礼拝、そして洗足式をする教会もあるようです。

この「洗足」という式ですが、ヨハネによる福音書 13 章 1～20 節にある、イエス様が弟子たちの足を洗われた出来事が元になっています。当時ユダヤでは、足を洗うということは奴隷が主人に対しておこなうことでした。それをイエス様が身をもっておこない、「あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない」と命じられました。

この出来事を覚え、ローマ・カトリック教会では、聖木曜日に 12 人の司祭の足をローマ教皇が洗うという伝統があります。さらに 2019 年には、教皇フランシスコが国籍も宗教も異なる 12 人の受刑者の足を洗い、口づけをしたというニュースがありました。

さてわたしたちにとって、「洗足」とは何を意味するのでしょうか。実際に洗足式をしてみてもいいと思います。(式文もあります)。またティントレットの絵画のように、誰かの足元に跪いてみるだけでも、イエス様が伝えたかったことが分かるかもしれません。

イエス様はわたしたちに、互いに足を洗い合うように言われました。それは自分がまず謙遜になることで、お互いのことを認め合い、お互いに仕え合うことにつながるということかもしれません。

次回は「洗礼」です。お楽しみに。



「弟子の足を洗うキリスト」(一部)

ティントレット

(1518 - 1594 年)

ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。

(ヨハネによる福音書 13 章 14 節)

